KMG活動計画26年度　「夢を持ち　地域と主体的にかかわりながら　学び　自立する湖東の子」～子供たちの自立をめざして（18歳の自立）～」

	実態	ミッション	目指す姿		26年度	26年度　活動の取り組み反省と来年度に向けて 質問項目番号	湖山	賀露	末恒	湖西	中	総	評価指標
学力向上部	授業づくり 授業に参加するための準備ができていない児童生徒がいる。 ・授業の中で関わりのある発言がない。 ・指示がないと授業の準備ができない。 ・遅刻してくる。 ・忘れ物があり、学習に	夢を持ち　地域と主体的にかかわりながら　学び　自立する湖東の子	主体的に考える児童・生徒	授業づくり	○調息の実施 ・授業の挨拶→調息（小学校では3校時始まり前に実施）→授業の開始で落ち着いて授業に取り組む。・強化週間（7月・9月・10月）において取り組み評価を行う。	6　2分前着席・学習準備	B	A	B	B	A	B	共通アンケート
						＜分析・評価＞ ・校区共通アンケートの結果が7月と比べて－6.6パーセントとなっている。7月は2分前というとらえが曖昧であったが、11月は2分前を意識して回答したからだと思われる。 ・調息の成果はあらわれてきている。「2分前」というアンケート項目の表現を検討する必要がある。例「授業開始前に着席し、学習の準備をしている。」（小学校用） （「2分前」の根拠としては、中学校の「2分前着席」の取り組みがあったため。）							
	家庭学習 家庭学習が習慣化していない児童生徒がある。 宿題はするが、自主的に予習、復習に取り組む児童生徒が少ない。 各学校では自主学習の推進に力を入れようとしている。		自らめあてを持ち、自学に取り組む子ども	家庭学習	○自主学習の推進 ・「自学の手引き」「児童生徒のノート」「保護者への啓発資料」等各校より具体物を持ち寄りそれらをもとに研修する。 ・「自学の手引き」「児童生徒のノート」等をデータ化し、CD－R等で共有できるようにする。	7　忘れ物なし	A	B	A	A	A	A	共通アンケート
						8　家庭学習時間	B	B	A	B	B	B	予習・復習については全国学力学習状況調査の質問紙の該当項目を検証
						9　進んで自学	B	B	A	B	C	B	
						＜分析・評価＞ ・生活ノートについて、小学校・中学校とも連絡項目や形式を改善し取り組めた(中学校では教科係の活躍の場ともしている)。ただ、忘れ物については学級でゼロという日がなかなか達成されず、家庭との連携もより密にする必要がある。 ・家庭学習については全体的によくなり評価に値するが、個々に目を向けるとできていない者が固定化され、学力差もそれに応じてついている。自学に限らず努力に対して評価する場を設けることで、家庭学習について意欲を高める必要がある。 ・自学については、ノート紹介や各自の取り組みについて評価していきながら意欲の向上を図るとともに、より具体的に自学の例も提示していく必要がある。 ・質問項目については本年度のものでよいと感じる。							
自治力向上部	自治活動 受け身で、言われたことはできるが、自分たちが考えて行動する力が弱い。		みんなで話合いながら、よりよい学校や学級にしようと進んで取り組む児童生徒	自治活動	○自治的活動が定着するための集団活動の日常化 ・各学校の自治的活動の取り組みを推進する。・児童生徒の活動に対して賞賛し、意欲が継続するよう評価に努める。	10　誰にでもあいさつ	C	C	B	B	C	C	共通アンケート
						11 より良い学校・学級	B	B	B	B	B	B	
						12 係・委員会活動	B	B	B	B	B	B	
						13 意欲的な活動	B	B	B	B	B	B	
						＜分析・評価＞ ・あいさつには力を入れているが、自己評価の割に周りの評価が得られないので、継続していきたい。自主的な活動に意欲的に取り組んでいる。まだ教師の支援が大きいので、自ら発想を広げ主体性が伸びていくようにしたい。							
	心の教育 人なつこい子が多いが、相手の気持ちを理解したり、自分の気持ちを伝えたりするのが苦手な子どもが多い。周りのことを考え、正しく判断・行動することも課題である。		人間関係づくりを通して、自他の良さを認め合い、節度ある言動の取れる児童生徒	心の教育	○「いいとこ見つけ」活動の実践 ・帰り学活や道徳・学活の時間に「いいとこ見つけ」「○△○△いい人見つけ」活動で発表を行ったり、付箋をはった掲示等の工夫を行ったりして、児童生徒の良さを共有し、自己有用（肯定）感を醸成する。	14 他人の良いところ	B	B	B	A	A	B	共通アンケート
						15　正しい判断・行動	B	B	C	B	B	B	
						16 自分の良いところ	C	C	C	C	D	C	
						＜分析・評価＞ ・活動は一部の学年にとどまっており、全校のものになっていない。学級の現状によって、効果に差がある。 ・学級経営がこの活動の基盤になるので、学級経営の柱として今後も取り組んでいきたい。 ・夏休み明けから取り組んでいるが、マンネリ化解消のための工夫が必要である。「ありがとうノート」は、その一案として、取り組んでいる。 ・各学級で取り組んだ。自己有用感を高める他の工夫として、個人のマラソンや縄跳びの回数をチームの評価に加えることで、チームに貢献できたという意識を持たせている。また、合唱コンクールにおいて、みんなで合唱を作り上げる経験も自己有用感を高めることにつながっている。 ・今日のMVPという形で取り組んでいる。マンネリ化しないためにも活動の評価が重要である。学級だけでなく、他学年からの「いいとこ見つけ活動」にも取り組んでいる。							
生活づくり部	学校生活づくり 学校内ではあいさつができる子はあるものの、地域において自主的にあいさつができない。流行や周りに影響されやすく、その場に応じた服装・身だしなみができない。		自分を律する生活態度が定着した児童・生徒	学校生活づくり	○自分を律する生活態度の定着 ・あいさつ（進んで）・身だしなみ（服装等落ち着いた学校生活に適した）・掃除（黙って）	10　誰にでもあいさつ	C	C	C	C	C	C	共通アンケート
						17 時間いっぱいそうじ	B	B	B	B	B	B	
						18 服装・頭髪みだしなみ	A	B	B	B	B	B	
						＜分析・評価＞ ・あいさつ…地域の方からは、あいさつができていないと言われているにもかかわらず、子どもの自己評価が高い（子どもにも地域の方の思いを知らせるべき）。教員がいるとあいさつをするが、いないとしない。 ・掃除…取り組み始めたころよりは、良くなってきている。が、しーんと黙って最後まで取り組んでいるとはいえない。 ・服装、頭髪…学校生活に適した服装、頭髪を心がけるようになってきた。							
	家庭生活リズム 朝食摂取率が低く、ゲーム、スマホ、TV等メディアとの接触時間が長い。その影響から起床・就寝時間が一定ではない。		「早寝・早起き・朝ごはん」等　家庭生活で自己管理ができる児童・生徒	家庭生活リズム	○朝食摂取率の向上 ・「これならできそう！朝ごはんレシピコンクール」の実施　夏休みの課題として小学校高学年・中学生に与える。→10月1日KMG代表者による審査会・結果発表→各学校HP,学校だより等各通信で公表、参観日・文化祭等で掲示。・「朝ごはんを食べよう週間」の実施　11月に2週間朝食を摂取したかどうか点検活動を行う。	19毎日朝食	A	A	A	A	A	A	共通アンケート
						20就寝時刻	B	B	B	B	C	B	
						21起床時刻	A	A	A	A	B	A	
						22テレビ視聴時間	C	C	C	C	D	C	
						23ゲーム等時間	B	B	B	B	C	B	
						24SNS等時間	A	A	A	A	B	A	
						＜分析・評価＞ ・ゲーム、スマホ、TV等、メディア接触時間が長く、その影響で就寝時刻が遅くなっている。 ・「朝食摂取率向上」の取り組み（「これならできそう!朝ごはんレシピコンクール」、「朝ごはんを食べよう週間」）が意識向上につながった。							